

特別支援教育部会開催状況

○ 特別支援教育部会の開催状況等

回	開催日	審議内容
1	令和2年 9月 4日 (金)	・前回の答申に沿って取り組んできた5年間の取組評価等の報告及び総括
2	令和2年12月25日 (金)	・特別支援教育における教員に求める専門性とその充実に係る審議
3	令和3年 2月25日 (木)	・連続性のある多様な学びの場の整備についての審議
4	令和3年 6月 7日 (月)	・特別支援学校のセンター的機能のより一層の充実と体制整備についての審議 ・児童生徒の障がいの重度重複化・多様化への対応についての審議
5	令和3年 6月24日 (木)	・特別支援学校における設置の在り方についての審議 ・アフターコロナを見据えた特別支援教育、GIGAスクール構想実現に向けたICT活用についての審議
6	令和3年 7月27日 (火)	・答申案に係る第一次検討
7	令和3年 8月24日 (火)	・答申案に係る第二次検討
8	令和3年10月 1日 (金)	・答申案に係る最終検討

○ 特別支援教育部会における主な委員の意見

回	主な委員の意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症・情緒障がい学級に在籍している人数が増え、複数学年を指導するのに限界がある。 ・教員の質の向上が求められている。研修の場がたくさんあるといい。 ・切れ目ない支援には関係機関との連携は否めない。専門性を高める上で必要。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・知識のある教員は増えているが、実践力につながらない。座学よりも実践事例が大事。 ・通常学級の教員のスーパーバイズの整備・整理が必要。 ・通常学級にも発達障がいの子供がいることを前提とした学級づくりが必要。 ・専門性を高めることも必要だが、学校自体の体制を整えていくことも必要。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は「個別的教育支援計画」の作成で悩んでいる。教員以外で作成や活用について説明できるエキスパートのような人材がほしい。 ・5歳児健診の役割がたいへん大きく、保護者の相談や研修の場となっている。 ・大学進学や就職の際の引継ぎが少ないと感じている。 ・サポートブックや医療受診のシート、県が作成した資料など活用されずに気が付いたら消えているようなものがたくさんある印象を受ける。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談する側から、LD等専門員と特別支援学校のセンター的機能の住み分けが十分理解できていない。 ・LD等専門員と教育委員会と特別支援学校の連携について、一か所に相談すれば三つにつながる形が取れたらよい。 ・障がいに関する知識について、教員は既に様々なところでたくさん学んできており、今後はそれをどのように活用するかのほうが重要である。

第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・盲学校の幼稚部というと全盲をイメージするが、弱視の子どもも多くいると思うので、弱視も受け入れる幼稚部を設置すると良い。 ・発達障がいがあり学校に通えない児童生徒を、病弱教育という形で特別支援学級や特別支援学校で受け入れる事例が増加。心理的ケアに関わる教育の専門性は何か、鳥取県として病弱教育の整理が必要である。 ・LD等専門員が活躍しているように、医療的ケア児や重度・重複障がい児についても子どもの健康や発達の理解に関する専門性の高い教員の育成や配置が必要である。 ・GIGAスクール構想実現に向けたICT活用は、すごく充実しているなという印象。情報リテラシーや情報モラルについて非常に大切になっていると思う。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育と福祉の連携について、時間はかかるがより具体的な対策を考える必要がある。 ・病弱教育やメンタルヘルスなど発達障がいとのかかわりも含めて踏み込んでほしい。 ・高等学校のインクルーシブ教育の推進について、研修の拡充や教員への啓発などもっと具体的な内容を入れてほしい。 ・卒業後の自立と社会参加について、現場で情報を共有することは重要である。具体的にどのようにしていくかが課題。 ・GIGAスクール構想については、ICT活用だけでなく障がいや重度の児童生徒の学習保障という観点についても触れてほしい。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室は全国的に皆が悩んでいるところ。教員をどう確保するかが課題。 ・二次的なものでメンタルヘルスや不登校の問題が出てくるので、教育相談の充実の内容を入れてほしい。 ・すべての高等学校に必要なことは、インクルーシブ教育の概念が教職員に定着すること。ぜひ答申に盛り込んでほしい。 ・居住地校交流などの交流及び共同学習がもっと進んで広がってほしい。 ・教育における支援ニーズのアセスメントは支援の必要性や緊急性も含め、教育の中で積極的にやっていただきたい。 ・特別支援学校の校舎や施設設備は、老朽化・狭隘化しているため、答申の中に盛り込んで改善していく方向を考えていきたい。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・答申案について十分熟慮、検討された。委員の意見が反映されたものとなっている。 ・特に高等学校では特別支援教育支援員の拡充が必要。 ・発達障がいのある方のメンタルヘルスの支援強化についての内容が追加されたことは大変意義がある。 ・障がい者スポーツや文化・芸術活動をとおしてたくさんの方に応援していただければよいと願っている。 ・トピックスも踏まえ各委員の思いの詰まったものになったと思う。ぜひ教育に携わるすべての人に知っていただきたい内容である。 ・「切れ目ない支援」がやっと大学や就職というところまで進んできたなど感じる。切れ目ない支援が今後もっと発展すればよいと思っている。